

技術・家庭科学学習指導案

指導者 佐々木由貴子

1 日時 平成18年 7月 7日(金曜日) 1校時

2 学級 1年1組 男子20名 女子16名 合計36名

西校舎3階 被服室

3 題材 学校で着る服を見つめよう ~エプロンを作ろう~

4 題材について

本時の指導内容は、学習指導要領では、A(6)イ「簡単な衣服の製作について課題を持ち、計画を立てて製作できること」をねらいとしている。さらに(6)イには、「生徒が活動できる日常着を扱うこと。(後略)」と示されている。1年生では、「基礎的・基本的な知識や技能及び学習のしかたを身につけさせ、生活に活かす」ことを念頭に置き、本題材では、学校内で着用される衣服を中心に扱いながら、日常着を自分らしく清潔に着るための学習を行っている。そして半完成品のエプロン製作では、生活に必要な縫製や製作の技術を身につけさせることを目的としている。衣類に関する仕事は、昭和の時代に家事に占める割合・内容を考えると、質・量ともに大きく急激に変化した。衣服は「製作する」ものではなく「購入する」ものとなり、衣服の手入れについてもクリーニング店やコインランドリーなど衣類の仕事の外部化が進んでいる。また日々新しい繊維や衣類が大量に生まれ、街の中にもあふれんばかりの衣類が流通している。このような状況の中で生徒たち自身が衣類の手入れや縫製にかかわる機会はどんどん失われ、それとともに既製の選択能力のみが要求される状況にある。しかし、素材の善し悪し・縫製のしかた・値段との兼ね合いなどがわからなければ、本当に商品の品質を見極め、自分の生活に合ったものを選ぶことはできない。また「自らの手で自分のものを管理し、手入れをする」行為ができることによって、初めて自立した生活を行うことができると考える。よって、縫製にかかわる基本的な技能や知識は、衣服の管理や手入れについて身につけさせる上での基盤となる大切な内容である。

生徒は、明るく素直であり、常に家庭科の学習に興味・関心を持って学習に取り組んでいる。糸通しや玉結び、ミシンの基本的な操作等について、比較的定着の度合いが高い。しかし各小学校によって、製作していた作品はまちまちであり、型紙を使用して製作実習を行ってきた生徒もいれば、手縫いのみで完成する作品作りで終わっている者もいるため、衣服の製作に関する経験は個人差があるものと思われる。また、「見本と同じ形にできていない」「ボタンがうまく付けられない」など何か問題に直面したときに、自分の作業の進め方や見方がどう間違っているのか(あるいはどこがわからなくて)いるのかを自分で判断したり、論理的に解決していこうとしたりする事が苦手である。それぞれの抱える課題が異なっても「隣の人にそういわれたからまずやった。」「みんながやっているから自分もやった」という解決方法をとろうとする場面が見られることが多い。

そこで本題材では、実際に身体を覆うことができる、今回のエプロン製作を通して、課題を的確に把握できずに、あいまいな認識と方法で問題解決をしがちな生徒たちに、ものの見方や科学的な根拠を示しながら、衣生活に必要な技能や知識を身につけさせていきたい。

5 指導と評価の計画 (別紙参照)

6 本時の目標

生活や技術への関心意欲・態度	型紙の大きさの決め方に、興味を持って取り組もうとしている。
生活を工夫し創造する能力	目的によって異なる型紙の縫い代の分量を工夫している。
生活の技能	ポケットの縫い代が、場所や目的により縫い方や分量が変わることを指摘できる。
生活や技術についての知識・理解	型紙は動作や使用目的により、大きさが決まることを説明できる。

7 本時の指導の構想

(1) 指導構想及び留意点

前時では、製作についての見通しを持ち、基礎縫いを復習しながら型紙を切る作業を行った。今回は、型紙に示されている「図」や「ことば」の意味を確認しながら、型紙の形や大きさはどのような要素から決まるのかについて考えさせたい。導入時では、今までの作業の流れからポケットの製作に入ることを示し、実物見本等の形や場所、大きさの観察をよりどころとしたい。そして、ポケットには用途・目的に応じて様々な形や大きさ、ポケットのつける位置が異なることに気づかせる。また縫い代や用途に応じたポケットの大きさをよりどころとして、布地の大きさが決まってくることに気づかせたい。さらに、作業を進めさせる中で、この授業では、「三つ折り」「縫い代」ということばを適切な場面で、意識的に使いながら定着をはかり、学習を進めていきたい。

(2) かかわり合いを生かす手だてについて

本時では自分の制服についているポケットや実物見本を見せながら、話し合いの場面がかかわらせたり、作業を班単位で行わせ、作業の準備や後始末も班単位で行わせたりすることによって「生徒同士のかかわり」を持たせていきたい。またエプロンを自分の身体に当てたり、制服を観察しながら答えを求めさせたりする事によって「自分と学習材とのかかわり」についても、意識させていきたい。

8 本時の展開

A 達成度 B 学習速度 C 取り組み方(学習の仕方) D 見方・考え方 E 興味・関心 F 生活経験

段階	過程	時間	学習活動	評価の視点・方法	指導上の留意点	教材教具等
導入	学習の意識化	5	1 前時の復習をする。 2 型紙を使って、製作した作品を想起させる。		・前時の型紙を選択していることを確認する。 ・経験のある生徒を中心に、型紙を使って製作した例を出させる。 F	・型紙 ・紙板書
			ポケットの型紙の形や大きさはどのようにして決まるのだろう			
展開	学習の具体化	40	3 ポケットのオリジナル型紙を作る。 4 様々なポケットの形を示しながら、ポケットの用途を確認する。 5 ポケットの形やの大きさのもとになっている要素を考える。 6 型紙の形や分量から、縫い代の必要性に気づく。 7 本時のまとめ 8 製作で使用した用具を片付ける。	型紙は動作や使用目的により、大きさが決まることを説明できる。 A：手との関係 C：制服に手を当てさせながらポケットの形の相関性に気づかせる。	・ポケットの型紙を各自作って、エプロンのポケットに必要な大きさを予想させる。 ・制服の観察や、作業服につく実用性の高いポケットや内ポケット、飾りポケットなどの提示をよりどころにしながら、ポケットの用途を確認する。 ・制服のズボンやスカートの内ポケットの形は、手のひらの形であること、ポケットに何を入れるかによって大きさが決まることをよりどころにしながら、考えさせる。 D ・ポケット口とその他の縫い代の長さが異なる理由について考えさせる。 ・本来のポケットの型紙とも比較させる。 ・型紙は「出来上がり+縫い代」でできていることを生徒に気づかせる。 ・時間によっては、ポケットの配置場所にもふれる。 ・班ごとに協力して、片付けさせる。	・再生紙 ・ポケットの例 ・制服 ・実物投影機 ・紙板書 ・実物見本 ・型紙
終結	学習の一般化	5	9 型紙の見方を通して学んだ事をまとめる。 10 本時の反省をし、発表する。 11 次時の予告		・見通しを持って作業をする大切さ確認させ、大きさに根拠があることは、すその長さを決める際にも役立つことを確認させる。 ・自己反省を記入させ、反省を発表させる。 B ・次時は裁断と印つけを行うことを確認する。	・プリント